

ハサルヘカラス

附加刑

第三章 附加刑

附加刑ニ三種アリ(一)自由上ノ附加刑(二)權利上ノ附加刑(三)財産上ノ附加刑即チ是ナリ監視ハ自由上ノ附加刑、剝奪公權、停止公權及禁治産ハ權利上ノ附加刑、罰金、沒收、追徴ハ財産上ノ附加刑ナリ元來附加刑ハ其目的再犯ノ發生ヲ豫防シ主刑ノ不備ヲ補充スルニアルヲ以テ其目的ヲ達スルニ足ラサル所ノモノハ附加刑ト爲スヘカラサルナリ監視ノ如キハ明カニ法律ノ旨趣ニ反ス特ニ禁治産ノ如ク其目的刑罰ト云ハソヨリ寧ロ保護ノ性質ヲ有スルモノヲ以テ之ヲ附加刑トナシタルハ殆ント其理由ヲ知ルニ苦シマスノハアラス

第一節 自由上ノ附加刑(監視)

監視ハ其目的再犯ヲ防遏シ社會ヲ保護スルニアリ蓋シ一旦自由刑ニ處セラレタル者ハ再ヒ社會ニ現出スルモ其信用既ニ地ニ墜チ容易ニ生活ノ途ヲ得ル能ハス之カ爲メニ直チニ再犯ヲ企ツル者尠ナシトセス故チ以テ出獄者ハ出獄後ニ於テ之ヲ其自由ニ放任スヘカラスシテ常ニ其一舉一動ニ注目シ特ニ之ヲ監視スルノ

乙

自由上ノ附加刑(監視)

必要アリ是レ何人ト雖モ決シテ批難セサル所ニシテ余モ深ク其必要ヲ信スル者ナリ唯出獄者ヲ監視スルノ方法如何ニ至テハ大ニ議論ノ存スル所ニシテ現行刑法ノ規定ヲ以テシテハ到底其目的ヲ達スルヲ得ス凡ソ出獄者ヲ監視スルニハ世人ヲシテ其出獄者タルコトヲ知ラシメスシテ而シテ之ヲ監視スルノ方法ヲ採ラサルヘカラス何トナレハ世人其出獄者タルコトヲ知ルニ於テハ必ズ之ト相伍スルコトヲ嫌忌シ益出獄者ノ信用ヲ狹少ニシ遂ニ出獄者ヲシテ生活ノ途ニ窮迫セシメテ而シテ再ヒ犯人タルニ至ラシムヘケレハナリ然ルニ現今ノ監視制度ハ全ク此旨趣ニ反スルカ故ニ再犯防遏ノ具ト爲ラスシテ却テ犯罪養成ノ具タラントス是レ前ニ假出獄ノ問題ニ付テ論セシ所ナリ

改正刑法草案ハ現行刑法ノ監視規則ハ到底其效ナキノミナラス却テ弊害アルコトヲ知リ盡ク之ヲ廢止シ單ニ監視ノ名稱ノ下ニ於テ出獄者ニ對シテ特別處分ヲ行フコトヲ許シタリ即チ(一)何時ニテモ監視者ノ家宅ヲ搜索スルヲ得ルコト(二)一定ノ地ヲ制限シテ監視者ノ立入ルコトヲ禁スルコト、セリ

(一)家宅搜索ノコトニ付キテハ別ニ困難ナシト雖モ(二)一定ノ場所ヲ制限スルコト

ニ關シテハ甚ダ困難ナル問題ヲ生スルナリ出獄者一定ノ土地ヲ追放セラレテ克ク其命ヲ遵守シ爾後其土地ニ足ヲ入ル、コトナクハ敢テ論議ヲ要セスト雖モ若シ出獄者ニシテ其命ニ服從セズシテ禁制ノ場所ニ侵入スルトキハ果シテ如何ナル制裁ヲ加ヘントスルカ夫レ監視ハ再犯ヲ防カンカ爲メニ設ケタル所ノ規則ナリ然ルニ再犯豫防ノ監視ニシテ犯罪ノ原因ヲ爲スコトアラシメハ到底犯罪ノ減少ヲ期スヘカラス然ラハ則チ監視規則ハ之ヲ設クル容易ナリト雖モ其制裁ニ至リテハ大ニ困難ナリト云ハサルヘカラス

第一注意 監視ハ元來附加刑ナルヲ以テ主刑ナクシテ獨リ其用ヲ爲スモノニアラサルナリ然レトモ或場合ニ於テハ刑法ハ例外トシテ主刑ナクシテ獨リ監視ノミヲ科スルコトアリ刑法第三十四條第二項ノ規定即チ是ナリ例ヘハ刑法第百二十六條ノ場合ノ如シ

第二注意 監視期間ハ主刑ノ刑期ノ長短ニ伴フモノナリ是レ即チ刑法第三十七條及ヒ第三十九條等ニ規定スル所ナリ

第二節 權利上ノ附加刑(剝奪公權及ヒ停止公權)

權利上ノ附加刑(剝奪公權及ヒ停止公權)

權利上ノ附加刑ハ一種アルノミ公權ノ剝奪及ヒ停止即チ是ナリ

剝奪公權ハ重罪ノ附加刑ニシテ停止公權ハ輕罪ノ附加刑ナリ剝奪ト停止ノ區別ハ單ニ其期間ノ長短ニ依リテ之ヲ設ケタルモノニ過キス剝奪ハ終身ノ喪失ニシテ停止ハ一時ノ喪失ナリ故ニ剝奪ト云フモ停止ト云フモ其執行ノ效果ニ至リテハ毫モ差異アルヲ見サルナリ刑法第三十二條ニ曰ク重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ別ニ宣告ヲ用ヰス終身公權ヲ剝奪スト而シテ第三十三條ニ於テハ禁錮ニ處セラレタル者ハ刑期間公權ヲ停止スト規定シ第三十四條ニ於テハ輕罪ノ刑ニ於テ監視ニ附シタル者ハ監視ノ期間公權ヲ行フコトヲ停止ストアリ抑モ刑法ニ規定スル公權トハ如何ナルモノヲ謂フ乎第三十一條之カ答ヲ爲シテ曰ク剝奪公權ハ左ノ權ヲ剝奪ス

- 一、國民ノ特權
- 二、官吏ト爲ルノ權
- 三、勳章、年金、位記、貴號、恩給ヲ有スルノ權
- 四、外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權

- 五、兵籍ニ入ルノ權
- 六、裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權但單ニ事實ヲ陳述スルハ此限ニ在ラス
- 七、後見人ト爲ルノ權但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラス
- 八、分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權
- 九、學校長及ヒ教師學監ト爲ルノ權

第一、國民ノ特權 刑法制定ノ當時ニ在リテハ未タ憲法ノ設ケナキヲ以テ國民ノ特權ノ如何ナルモノナルコト得テ而シテ知ルヘカラザリシ從テ其解釋ノ區々ニ出テタルヤ亦疑フヘカラサルナリ然レトモ今日ニ於テ特權ノ何物タルコトヲ知ラントスルニハ必ス我憲法ニ基キテ之ヲ解釋セサルヘカラス試ミニ我憲法ヲ按スルニ其第十九條ニ曰ク「日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應シ均シク文武官ニ任セラレ及ヒ其他ノ公務ニ就クコトヲ得」又第二十條ニ曰ク「日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス」是レ皆日本人ノ特權ナリ外國人ハ決シテ之ヲ有セス

憲法第十九條及ヒ第二十條ニ規定スル所ノモノハ皆日本人民ノ特權ニシテ公權ニ屬ス而シテ其第二十一條乃至第三十條ニ規定スル所ノモノハ悉ク是レ日本人ノ私權ニ屬ス第十九條及ヒ第二十條ノ權利ハ外國人之ヲ有スル能ハサルヤ固ヨリ論ナシ然レトモ第二十一條乃至第三十條ニ規定スル權利ハ果シテ是レ日本人ノ特權ニシテ其特有物ナリト云フヲ得ルヤ抑モ此等ノ權利ハ凡ソ人カ社會ニ立チ生存スルニ付キ必要缺クヘカラサル所ノモノニシテ此等ノ權利ナクンハ人ハ一日モ安全ノ生活ヲ保ツコトヲ期スヘカラサルナリ去レハ此種ノ權利ハ日本人ト外國人トヲ問ハス必ス之ヲ有セシメサルヘカラス若シ然ラストセンカ外國人ハ日本ニ於テ一日モ其生ヲ安スル能ハサルニ至ラン然ラハ則チ刑法ニ所謂國民ノ特權トハ必ス日本人特有ノ權利ナラサルヘカラス而シテ憲法第十九條ニ規定スル文武官ニ任用セラル、權利及ヒ第二十條ニ於ケル兵籍ニ入ルノ權ノ如キハ別ニ本條第二號及ヒ第五號ニ規定スルヲ以テ第一號中ニ包含スト云フヘカラス故ニ第一號ニ所謂國民ノ特權ハ極メテ狹隘ニシテ單ニ憲法第十九條後段ニ所謂其他ノ公務ニ就クノ權ニ止マラサルヘカラス公務ニ就クノ權トハ廣ク參政權ヲ指示スルヲ以テ官吏ニ任用セラル、權利ノ如

キモ亦之ヲ包含セサルヘカラス然ルニ官吏ニ任用セラル、權ニ付テ別段ノ規定ヲ設クル上ハ茲ニ所謂公務ニ就クノ權トハ法律ニ依リ組織セラレタル議會ニ於ケル選舉權、被選舉權ヲ指スモノナリト解釋セハ則チ可ナラン

第二、官吏ト爲ルノ權 官吏ト爲ルノ權トハ固ト是レ國民ノ特權中ノ一ナリ若シ強テ之ヲ解釋セハ參政權ニ對シテ云フモノナリトナシテ可ナラン

第三、勳章、年金、位記、貴號、恩給ヲ有スルノ權 人民カ政府ヨリ受クヘキ特權ニ過キス之ヲ奪フハ其人ノ名譽ヲ害セントノ目的ニ出ツルナリ然レトモ勳章、年金ノ如キハ必ス日本人ノ特有權ニアラス外人モ亦之ヲ有スルコトヲ得ルナリ恩給ヲ有スル權ヲ以テ之ヲ此ニ編入セルハ少シク穩當チ缺クニ似タリ恩給ハ官吏カ俸職中其俸給ノ幾部ヲ減シテ以テ毎月官ニ貯蓄シタル積立金ナリ即チ官吏カ一個人又ハ銀行ニ預ケタル貯蓄金ト毫モ異ナル所ナシ然ルニ其人刑罰ヲ受ケタルカ爲メニ此貯蓄金取戻ノ權利ヲ失フト謂フニ至リテハ間接ニ巨額ノ罰金ヲ科スルニ同シ豈剝奪公權ノ本旨ナランヤ

第四、外國ノ勳章ヲ佩用スルノ權 此權利ヲ奪フモ亦是レ其人ノ名譽ヲ害セン

トノ目的ニ外ナラス然レトモ刑法ニハ唯外國ノ勳章トハミアリ年金ノ事チ一言セス故ニ此權利ヲ失フモ年金ノ權ハ之ヲ失フモノニアラサルナリ

第五、兵籍コ入ルノ權 日本人ノ兵籍ニ入ルハ一ノ義務ニシテ權利ニアラス憲法第二十條ノ如キ亦之ヲ以テ一ノ義務ナリトセリ一朝國ニ事アルニ當リ之カ防禦ノ事ニ任スルモノハ日本人ヲ措キテ豈他アランヤ然ラハ則チ日本人ノ兵役ニ就クハ權利ニアラスシテ義務タルヤ明カナリ若シ夫レ兵籍ニ入ルヲ以テ國民ノ權利ナリトシ重罪ヲ犯シタル者ハ此權利ヲ剝奪セラル、モノナリトセシカ或ハ兵役ニ就クヲ欲セサル者ハ好シテ重罪ヲ犯スニ至ラン然レトモ軍隊ハ國ヲ防衛スルノ要具ナリ而シテ犯人ハ國ヲ害スルノ惡民ナリ此惡民ヲ驅リテ以テ防衛ノ要具ト爲ス豈危險ナラスヤ重罪ノ刑ヲ受ケタル者チシテ兵役ニ入レシメサルハ全ク其理由ナキニアラサルナリ

第六、裁判所ニ於テ證人ト爲ルノ權 凡ソ證人ト爲ルコトハ國民ノ義務ニシテ權利ニアラサルコトハ刑事訴訟法ニ於テ明カニ規定スル所ナリ然ルニ之ヲ以テ一ノ權利ナリト規定セシハ刑法ノ誤ナリト謂ハサルヘカラス若シ之ヲ權利

ナリトセンカ裁判所ハ其必要ヲ認めサル場合ニ於テモ尙ホ證人ヲ訊問スルノ義務アルナリ凡ソ證人ハ裁判所ニ於テ或事實ヲ明白ナラシメンカ爲メニ之ヲ用ユルニ過キサルモノナレハ縱令國民ハ證人タラシムコトヲ望ムモ之ヲ必要トセサル場合ニ於テハ之ヲ拒絕セサルヲ得ス此ノ如ク裁判所ハ證人ヲ訊問スルト訊問セサルトノ自由ヲ有ストセハ證人タルノ行爲ハ是レ其人ノ義務ニシテ權利ニアラサルヤ明カナリ今假ニ一步ヲ讓リテ之ヲ權利ナリトスルモ法律ハ何ノ理由ニヨリテ獨リ證人タルコトヲ禁センヤ鑑定人通事モ亦裁判所ノ耳目トナリ事實ヲ明カナラシムルモノナリ豈之ヲ證人ト區別スヘキノ理由アラシヤ

第七、後見人ト爲ルノ權 後見モ亦是レ國民ノ義務ナルコトハ民法ニ於テ明カニ規定スル所ナリ凡ソ日本政府ハ日本人ヲ保護スルノ義務アリ而シテ其義務ヲ行フニ付テハ或ハ一般保護ヲ以テ足レリト爲スコトアリ或ハ特別保護ヲ要スル場合アリ無能力者ノ如キハ特別保護ヲ要スル者ニシテ法律ハ其目的ヲ達センカ爲メニ後見制度ヲ設ケタルナリ後見職ハ法律ノ命スル所ノ義務ナルヲ

以テ其選定ヲ受ケタル者ハ故ナク之ヲ辭任スルヲ得サルナリ然ルニ刑法之ヲ以テ權利ナリトセシハ余輩其理由ノ存スル所ヲ知ラサルナリ然レトモ後見職ハ信用上ニ基ク所ノモノナレハ重罪犯者ノ如キ其信用亡ヒタル者ヲ選ミテ特別保護者タル重大ノ任務ニ當ラシムルコト危險モ大ナリト謂ハサルヘカラス故ニ歐洲諸國ノ法律ニ於テモ此種ノ犯人ニ對シテ後見人トナルノ資格ヲ奪ヒタルノ例ハ屢見ル所ナリ改正刑法草案ノ如キ亦此理由ヨリシテ此種ノ者ニ對シテ後見人タルノ義務ヲ免レシムルノ規定ヲ設ケタリ

我國ノ法律ニ於テハ親權ヲ剝奪スルノ規定ナシ是レ實ニ缺點ナリトス我國ノ風習親ニ對スル子ノ不行狀ハ深ク之ヲ咎ムト雖モ親カ其子ニ對スル暴虐ハ常ニ之ヲ不問ニ付スルナリ是レ國民一般ノ觀念タルニ止マラス立法者モ亦此ノ如キ思想ヲ有セルモノ、如シ然レトモ彼ノ金錢ニ眩惑シテ其女子ヲ苦界ニ沈メントスル親アリ其女子ハ泣テ之ヲ拒ムモ親權ヲ濫用シ遂ニ之ヲ決行ス此ノ如キ親ヲシテ尙ホ親權ヲ行ハシムルトキハ殆ント其禍害ノ停止スル所ヲ知ラサルニ至ルヘシ今ヤ第七號ニ於テ但書ヲ加ヘタリ曰ク親族ノ許可ヲ得テ子孫

ノ爲メニスルハ此限ニ在ラスト是レ重罪ヲ犯シタル者ヲシテ自由ニ親權ヲ行フコトヲ得サラシメントノ目的ヲ有スルモノニシテ多少親權濫用ノ惡弊ヲ防クニ足ランカ

第八、分散者ノ管財人ト爲リ又ハ會社及ヒ共有財産ヲ管理スル權、管財人ハ破産者ヲ代表スルカ爲メニ之ヲ設クルモノナリ此職モ亦信用ヲ基礎トシテ設クル所ノモノナレハ一タヒ重罪ヲ犯シテ刑罰ニ處セラレタル者ヲシテ此職務ニ任セシムヘカラサルヤ論ヲ俟タズ會社及ヒ共有財産ヲ管理スルノ權モ亦是レ信用ニ基ク所ノモノナレハ爰ニ之ヲ禁スル誠ニ理由アルナリ

第九、學校長及ヒ教師、學監トナルノ權、學校ニシテ官立ナル時ハ其教師モ亦官吏ナリ然ルニ官吏ニ關シテハ既ニ第二號ノ規定アレハ爰ニ之ヲ再ヒスルノ必要ナシ然ラハ爰ニ規定セル學校長、教師、學監ハ私立學校ヲ指示シタルモノナラシカ然レトモ學校ニハ普通學ノモノアリ專門科ノモノアリ工藝技術科ノモノアリ其何レノ種類ヲ問ハス苟モ學校ノ名稱ヲ有スルモノニ對シテ常ニ此規定ヲ適用セントスルハ大ニ文明ノ進歩ヲ害スル憂ナキカ例ヘハ玆ニ全國唯一ノ

畫工アリ其畫工誤テ重罪ヲ犯セリ若シ出獄後之ヲ以テ教師ト爲スヘカラサラシメハ其技術ハ到底之ヲ後進者ニ授クルヲ得スシテ終ラントス豈文明事業ノ爲メニ賀スヘキコトナランヤ

終リニ臨ミテ一言スヘキモノアリ公權ノ剝奪ト其停止ハ其目的同一ニ出ツルト雖モ其性質ニ至テハ二者必スシモ同一ナラサルモノアリ剝奪公權ハ永遠無窮ニシテ終身刑ナリ停止公權ハ刑期内ニ止マルモノトス抑モ剝奪公權ハ善良ノ附加刑ナルヤ余ヲ以テ之ヲ觀レハ剝奪公權ハ實ニ不公平ニシテ且無効ノ附加刑タルヲ免レス凡ソ剝奪公權ハ犯人ノ身分ニ依リ之ヲ適用スルニ於テ初メテ其效ヲ奏スルモノナリ例ヘハ國民ノ特權ヲ行フ所ノ人又ハ官吏タル者ニ對シテ之ヲ科セシカ大ニ其效ヲ奏スヘシト雖モ此等ノ身分ヲ有セサル者ニ對シテ之ヲ科スルモ果シテ何等ノ效果ヲ奏スルヤ夫レ此ノ如ク剝奪公權ハ或一部ノ人ニ對シテハ其效ヲ奏シ他ノ一部ノ人ニ對シテハ更ニ其效ヲ有スルモノニアラストセハ其刑ノ不公平ナルヤ明カナリ然ルニ刑法ハ何等ノ區別スル所ナクシテ之ヲ一般ニ適用スヘシト規定シタルハ是レ誤謬ノ甚シキモノナリ故ニ剝奪公權ハ之ヲ科スルニ

當リテハ第三十一條ニ規定スルカ如ク必ス全部ヲ科スルモノト爲サスシテ自由ニ之ヲ分割スルコトヲ得テ而シテ犯人ノ身分ニ應シ其適切ナルモノヲ擇ミテ之ヲ科スルコト、爲サハ或ハ其效ヲ見ルコト大ナル所アラシク改正刑法草案ハ此主義ヲ採リ剝奪公權ヲ以テ可分的ノモノトセリ

財産上ノ附加刑

第三節 財産上ノ附加刑

財産上ノ附加刑二種アリ罰金及ヒ沒收即チ是ナリ沒收ハ單純ナル附加刑ナルヲ以テ茲ニ之ヲ論スヘキハ固ヨリ當然ナリト雖モ罰金ハ或ハ主刑タルコトアリ或ハ附加刑タルコトアルヲ以テ主刑トシテハ主刑ノ項ニ於テ之ヲ論シ附加刑トシテハ附加刑ノ項ニ於テ之ヲ論セサルヘカラサルニ似タリ然レトモ罰金ハ其性質及ヒ徵收ノ方法ニ至テハ常ニ同一ナルヲ以テ集メテ之ヲ概論スルモ敢テ不可ナル所ナケム

罰金附科料

第一款 罰金附科料

罰金ハ政府ニ對シテ金額ヲ辨償スルノ義務ヲ負擔スルニ於テ成立スル所ノ刑罰ナリ此刑罰ハ必ス二性質ヲ有ス

(一) 罰金ハ禁制命令ノ違犯ニ對シテ科スル所ノモノナリ故ニ民法又ハ契約ニ於テ規定スル過怠金ト混同スヘカラズ

(二) 罰金ハ犯罪事實ノ審理後判事ニ於テ宣告スル所ノモノナリ此二性質ヲ備フル以上ハ其民事部ニ於テ之ヲ科スルモ又刑事部又ハ豫審ニ於テ之ヲ科スルモ決シテ刑罰ノ性質ヲ失フモノニアラサルナリ然ルニ我現行ノ法律中罰金ノ名稱ヲ有セスシテ罰金ノ性質ヲ備フルモノアルヲ見ル例ハ銃砲彈藥取締規則ニ於テ此規則ヲ犯ス者ハ過料ニ處ストアリ過料ノ刑名ハ刑法ニ記載セサルカ故ニ論者之ヲ以テ刑罰ニアラス刑事裁判所ニ於テ宣告スヘキモノニアラスト爲スアリ余ハ法律ニ於テ禁制命令ノ制裁トシテ之ヲ設ケ而シテ其制裁ハ裁判所之ヲ司ルモノナリト認ムル上ハ其名稱ノ如何ニ拘ハラス刑罰ノ性質ヲ有スルモノナリト信シテ疑ハサルナリ故ニ過料ハ其刑名刑法ニ記載ナシト雖モ罰金又ハ科料トシテ之ヲ宣告スルニ於テ其不可ヲ見サルナリ

(一) 罰金ハ刑罰ニ外ナラス是故ニ刑罰ノ性質ハ悉ク之ヲ罰金ニ適用セサルヘカラズ

(イ) 罰金ハ犯人ノ一身ニ專屬ス(1)故ニ罰金ノ宣告前又ハ其宣告確定前犯人死去スルトキハ公訴消滅スルカ故ニ其子孫ニ對シテ之ヲ徵收スルヲ得ス若シ判決確定後犯人死去スルトキハ其子孫ハ先人ニ代リテ罰金ヲ納ムルノ義務アルカ論者曰ク罰金ノ裁判確定スレハ政府ハ其犯人ニ對シテ債權者トナリ犯人ハ債務者トナルナリ債務者ノ義務ト權利ハ其相續人之ヲ相續スルヲ以テ犯人ノ死去後相續人ハ罰金ヲ完納スルノ義務アリト余ハ此說ニ左袒スル能ハサルナリ刑ハ其人ノ一身ニ止マルトハ刑法ノ原則ナリ若シ子孫ハ先人ノ罰金ヲ完納スルノ義務アリトスレハ是レ犯人以外ノ者ニ對シテ刑ヲ科スルナリ殊ニ罰金ハ之ヲ完納セサルトキハ之ヲ以テ輕禁錮ニ換フルノ制裁アリ若シ子孫ニシテ罰金ヲ完納スルノ資力ヲ有セザランカ子孫ハ輕禁錮ノ制裁ヲ受ケサルヘカラス豈刑法ノ禁制命令ニ違犯セシテ而シテ刑罰ヲ受クルノ道理アラシヤ(2)數人共犯ノ場合ニ於テハ共犯人ノ各自ニ對シテ全額ノ罰金ヲ科スルナリ(3)民事擔當人ニ科スヘキ罰金ハ民事擔當人之ヲ完納スルノ義務アルヲ以テ若シ完納スル能ハサルトキハ換刑ノ處分ヲ受ケサルヘカ

ラス例ヘハ未成年ノ酒造營業人アリ營業上ノ事務ハ皆其後見人ニ於テ之ヲ管理ス一朝誤テ營業上ノ規則ニ違犯ス此場合ハ法律ハ未成年者ヲ罰スル能ハサルヲ以テ必ス其後見人ヲ罰セサルヘカラス若シ後見人罰金ヲ完納スルコト能ハサレハ換刑處分ヲ受ケサルヘカラス

(ロ) 罰金ハ法律ノ明文外ニ於テ之ヲ宣告スルヲ得ス

(ハ) 罰金ハ刑ノ時效ニ因テ消滅ス

(ニ) 罰金ハ二圓以上ト爲シ各本條ニ於テ其多寡ヲ定ムルカ故ニ判事ハ其多寡ノ範圍内ニ於テ自由ニ之ヲ科スルコトヲ得

(三) 罰金ハ無資力者ニ對シテ之ヲ執行スルヲ得ス然レトモ犯人ノ無資力ハ其責任ヲ免スルノ原因トナラサルヲ以テ之ニ代フルニ換刑處分ヲ以テス刑法第二十七條ニ曰ク罰金ハ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ完納セシム若シ完納セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ之ヲ輕禁錮ニ換フ其一圓ニ滿サルモノト雖モ仍一日ニ計算ス罰金ヲ禁錮ニ換フル者ハ更ニ裁判ヲ用ヒス檢察官ノ請求ニ因リ裁判官之ヲ命ス但禁錮ノ期限ハ二年ニ過シルコトヲ得ス若シ禁錮限内罰金ヲ納メタ

ルトキハ其經過シタル日數ヲ控除シテ禁錮ヲ免ス親屬其他ノ者代テ罰金ヲ納メタル時亦同シト本條ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ一月内ニ完納セシムルトアルヲ以テ裁判確定後一月間ハ犯人ニ於テ罰金ヲ納メサルノ權利ヲ有ス罰金ノ刑ニ限リ一月間ノ執行猶豫ヲ爲スノ理由ナキヲ以テ改正刑法草案ニ於テハ之ヲ改正シテ確定後直チニ徵收スヘキモノトセリ

科料ニ付テハ別ニ論スヘキモノナシ是レ五錢以上一圓九十錢以下ノ罰金ニ過キサルナリ科料ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ完納セシム若シ限内完納セサル者ハ第二十七條ノ例ニ照ラシ之ヲ拘留ニ換フ(第二十九條及ヒ第三十條)

沒收

第二款 沒收

沒收ニ付テハ先ツ沒收スヘキ物件ヲ論シ後チ沒收ノ性質ヲ論スヘシ

(一) 沒收スヘキ物件如何 刑法第四十三條ニ曰ク左ニ記載シタル物件ハ宣告シテ官ニ沒收ス但法律規則ニ於テ別ニ沒收ノ例ヲ定メタル者ハ各其法律規則ニ從フ

一、法律ニ於テ禁制シタル物件

乙

二、犯罪ノ用ニ供シタル物件

三、犯罪ニ因テ得タル物件

本條ノ規定ニ因レハ凡ソ沒收スヘキ物件ノ種類三ツアリ(一)法律ニ於テ禁制シタル物件(二)犯罪ノ用ニ供シタル物件(三)犯罪ニ因テ得タル物件即チ是ナリ

(イ) 法律ニ於テ禁制シタル物件トハ如何ナルモノヲ謂フ乎先ツ禁制ノ意義ヲ明カニスルヲ要ス禁制ノ場合甚ダ多シ或ハ物件ノ製作輸入ヲ禁制スルコトアリ或ハ物件ノ販賣交換ヲ禁制スルコトアリ或ハ物件ノ販賣交換ヲ禁制スルコトアリ或ハ物件ノ所持所有ヲ禁制スルコトアリ此數個ノ場合ニ於テ其禁制ハ所爲ヲ目的トスルアリ又物件ヲ目的トスルアリ其物件ヲ目的トシタル場合ニ於テハ沒收ノ規則ヲ適用スルコト甚ダ困難ナラスト雖モ其所爲ヲ目的トシタル場合ニ於テ沒收ノ適用必ス容易ナリト謂フヘカラス製作輸入ノ所爲ヲ禁制シ所持所有ノ所爲ヲ禁制シタルトキハ間接ニ物件其モノヲ禁制シタルコト均シキカ故ニ沒收ノ刑ヲ適用シテ毫モ不可ナル所ナシ然レトモ販賣交換ノ所爲ヲ禁制シタルトキハ是レ物件其モノヲ惡ミテ而シテ之ヲ禁制シタルニアラスシテ唯販賣交換ノ所爲

其モノヲ惡ミテ之ヲ禁制シタルナリ故ニ販賣交換ヲ爲サ、ル限リ其物件ヲ製造シテ可ナリ之ヲ輸入シテ可ナリ之ヲ所持所有シテ不可ナルナキヲ以テ此種ノ禁制物件ニ對シテ沒收ノ刑ヲ適用スルハ余未タ其可ヲ見サルナリ余ハ間接直接物件其モノ、成立存在ヲ禁制シタル場合ヲ指シテ法律ニ於テ禁制シタル物件ナリト謂フモノナリト解釋セント欲スルナリ例ハ偽造變造ノ貨幣又ハ阿片烟ハ之ヲ製造輸入スルコトヲ禁制シ又阿片烟ハ之ヲ所有シテ受寄スルコトヲ禁制シ猥褻ノ圖書物品ハ公然之ヲ陳列シ又ハ販賣スルコトヲ禁制シタルモノナリ偽造貨幣阿片烟ノ沒收ニ付テハ何人モ疑フ所ナシト雖モ猥褻ノ圖書物品ノ沒收ニ至リテハ未タ其可ヲ知ラサルナリ

現行刑法ノ規定ハ之ヲ解釋スル甚ダ困難ナルヲ以テ改正刑法草案ニ於テハ此一號ヲ改正シテ犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物件ナリトセリ然レトモ犯罪行為ヨリ生シタル物件ナリトスルモ亦必ス明瞭ナリト云フヲ得ス余ハ未タ其孰レカ優レルヲ知ラサルナリ

(ロ) 犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ犯人カ罪ヲ犯スニ付キ直接ニ使用シタル物

件ヲ謂フ例ハ人ヲ殺害スルニ用ヰタル兇器放火スルニ用ヰタル火具ノ類ノ如シ然レトモ此物件モ亦屢其性質ヲ明カニスヘカラサル場合ナシトセス門戶牆壁ヲ踰越スルカ爲メニ用ヰタル梯子ハ何人モ其竊盜又ハ家宅侵入罪ノ用ニ供シタルモノナルコトヲ疑ハスト雖モ對岸ノ倉庫ヲ破壞センカ爲メニ河ヲ渡シタル舟ハ未タ以テ倉庫破壞ノ用ニ供シタルモノナリト謂フヘカラス要スルニ此物件ハ犯人カ之ヲ使用シタル方法如何ニ依リ沒收ノ目的ト爲ルモノナレハ裁判官ノ認定ヲ俟ツテ後ナニ定マルナリ

狩獵法違犯ニ關シ銃砲ノ沒收ニ付キ屢困難ナル問題ヲ生スルコトアリ曰ク無免許ニテ狩獵シタル者ノ銃砲ハ之ヲ沒收スヘキ乎曰ク禁制鳥ヲ射撃シ又ハ禁制ノ塲處ニ於テ發銃シタル者ノ銃砲ハ之ヲ沒收スヘキ乎此等ノ問題ニ付テハ議論多シト雖モ余ハ一々之カ説明ヲ爲サスシテ唯余ノ決定ヲ下タスニ止メントス即チ無免許又ハ禁制地ノ銃獵ニ付テハ銃砲ヲ沒收スヘカラス禁制鳥ノ銃獵ニ付テハ銃砲ヲ沒收スヘシ無免許又ハ禁制地ノ銃獵ニ付テハ銃砲ハ犯罪ノ用ニ供シタルモノニアラス禁制鳥ノ射撃ニ付テハ其銃砲ハ犯

罪ノ用ニ供シタルモノナレハナリ

(ハ) 犯罪ニ因テ得タル物件トハ犯罪ヲ行フテ而シテ取得シタル物件ヲ謂フ例
 へハ竊盜ヲ爲シテ得タル金錢物品ノ如ク遺失物ヲ拾得シテ占領シタル物件
 ノ如ク賄賂ニ因テ得タル物件ノ如ク狩獵法違犯ニ因テ獲得シタル鳥獸ノ類
 ノ如シ

凡ソ犯罪ニ因テ得タル物件ニシテ其沒收スヘキモノハ必ス犯罪ニ直接シタルモノナラサルヘカラス犯罪ニ因テ得タル後其物件ノ性質種類ヲ變更シタルトキハ沒收ノ目的ト爲ルヘキモノニアラサルナリ例へハ犯人ハ竊盜ヲ犯シテ時計ヲ得直チニ之ヲ賣却シテ金錢ニ換ヘタリ又ハ金錢ヲ竊取シテ之ヲ以テ衣服ヲ調製セリ此等ノ場合ニ於テ犯人カ現ニ有スル所ノ金錢衣服ハ是レ皆犯罪ニ直接シタルモノニアラスシテ既ニ其性質ヲ變更シタルモノナレハ決シテ沒收ノ目的ト爲ルヘキモノニアラサルナリ

此原則ヲ勵行スルニ於テハ屢奇怪ノ結果ヲ生スルコトアリ犯人ハ拾圓紙幣一枚ヲ竊取シ直チニ兩替屋ニ至リ一圓紙幣十枚ニ換ヘタリトセンニ此一圓

紙幣十枚ハ其竊取セシ十圓ニアラサルヲ以テ之ヲ沒收スルヲ得ス又犯人ハ一片ノ唐木ヲ竊取シ之ヲ其家ニ持歸リテ彫刻ヲ爲セリ此場合ニ於テモ物件ノ性質ハ既ニ一變スルカ故ニ沒收ノ目的ト爲スヘカラスト謂ハサルヲ得ス又犯人ハ氷塊ヲ竊取セリ捕縛ノ時ハ既ニ解ケテ水トナレリ此場合ニ於テモ亦其水ハ之ヲ收沒スヘカラスナリ

(二) 沒收ノ性質如何 沒收ノ性質ニアリ(一)禁制物ニアラスシテ犯人ノ所有ニ係ルモノヲ目的トスルトキハ沒收ハ現物ヲ以テスル罰金ノ性質ヲ有シ(二)禁制物ヲ目的トスルトキハ沒收ハ警察處分ノ性質ヲ有ス

(二) 罰金ノ性質 罰金ノ性質ヲ有スルトキハ沒收ハ單純ノ刑罰ナルヲ以テ其目的犯人ノ不正利得ヲ禁制シ且犯罪ノ再發ヲ豫防セントスルニ在リ故ニ

(イ) 沒收ハ犯罪ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對スルニアラサレハ之ヲ適用スルコトヲ得ス數人共犯ノ場合ニ於テ時ヲ異ニシテ裁判ヲ爲スコトアリ此場合ニ於テ同一物件ニ付キ初メ甲ニ對シテ沒收ヲ宣告シタルトキハ後乙ニ對シテ更ニ沒收ヲ宣告スヘキ乎沒收ハ刑罰ナリ其刑罰ナル性質ヨリ觀察セ

ハ甲乙ハ共犯ナルヲ以テ凡テノ共犯者ニ對シテ同一ニ沒收ヲ宣告ヲ爲ササルヘカラサルニ似タリ然レトモ沒收スベキ物件ニ付テ之ヲ考レハ其物件ハ單一ニシテ既ニ甲ニ對シテ沒收ヲ宣告シタル以上ハ乙ニ對シテ更ニ宣告スヘキモノナシ現物ナキ場合ニ於テハ沒收ハ之ヲ適用スヘカラサルカ故ニ乙ニ對シテハ別ニ沒收ヲ宣告スヘキモノニアラサルナリ

(ロ) 沒收ハ犯人其者ニ對スルニアラサレハ之ヲ宣告スルヲ得サルヲ以テ犯人死去スルトキハ沒收ノ刑ハ直ニ消滅スルコト猶ホ罰金ノ刑ノ如シ故ニ若シ沒收ノ宣告前犯人死去スルトキハ其子孫ニ對シテ之ヲ宣告スルコトヲ得ス若シ裁判確定前死去スルトキハ其沒收ハ公訴ト共ニ消滅スヘシ然レトモ裁判確定後ニ至リ犯人死去シタルトキハ沒收物件ハ既ニ政府ノ所有ニ歸シタルヲ以テ其子孫ニ對シテ之ヲ徵收セサルヘカラス

(ハ) 沒收ハ犯人ノ所有ニ係ル物件ニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス刑法第四十四條ニ曰ク犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ犯人ノ所有ニ係ル場合ニアラサレハ之ヲ沒收スルコトヲ得スト

(二) 警察處分ノ性質 禁制物ニ屬スル物件ハ其成立存在ヲ以テ社會ノ爲メニ

危険アリト爲シ之ヲ沒收スルモノナレハ是レ其目的犯人ノ不正利得ヲ禁シ犯罪ノ再發ヲ豫防スルニアラスシテ全ク物件其モノ、成立存在ヲ禁制セントスルニ在ルヤ明カナリ故ニ若シ物件其モノヲシテ訟廷ニ立テ辯論スルノ能力ヲ得セシメハ直ニ物件其モノヲ對手トシテ之ヲ訴フルヲ得ヘキナリ唯物件カ此能力ヲ有セサルヲ以テ犯罪ノ機會ニ乘シ其存在スル所ニ就テ之ヲ沒收スルノミ此沒收ノ目的犯人ニ科スル刑罰ニアラスシテ物件其モノ、危害ヲ除クニ在リトセハ刑罰ノ性質ヲ有スルモノニアラスシテ警察處分ノ性質ヲ有スルモノタルコト多辯ヲ俟タサルナリ是ニ於テ乎左ノ結果ヲ生ス

(イ) 犯罪事實成立スルトキハ犯人ノ罰セラル、ト否トニ拘ハラヌ沒收ヲ爲スコトヲ得ヘシ故ニ犯罪事實成立スル以上ハ未ダ犯人ノ何人タルコトヲ知ラスト雖モ尙ホ沒收ヲ爲スコトヲ得論者或ハ言ハン犯人ノ何人タルコトヲ知ラサルトキハ公訴ヲ提起スヘカラサルカ故ニ沒收ヲ行フニ其途ナカラントスト余曰ク此場合ニ於テハ檢事ハ唯其物件ニ付キ沒收處分ヲ以

テ之ヲ裁判所ニ請求スレハ可ナリ裁判所ハ其物件ノ性質ヲ審査シ没收ノ
裁判ヲ爲スヘシ又此種ノ物件ノ没收ハ犯人ノ死去後ト雖モ尙ホ其子孫ニ
對シテ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ但其子孫ハ自ラ犯シタル罪ナキヲ以テ縱令
没收ノ宣告ヲ受クト雖モ訴訟費用ノ負擔ヲ爲スヘキモノニアラルナリ

(ロ) 此没收ハ民事擔當人ニ對シテモ之ヲ宣告スルコトヲ得

(ハ) 禁制物ノ没收ハ其物件ノ何人ノ所有ニ係ルヲ問ハス之ヲ行フコトヲ得
刑法第四十四條ニ曰ク法律ニ於テ禁制シタル物件ハ何人ノ所有ヲ問ハス
之ヲ没收スルコトヲ得ト蓋シ法律ノ目的物件其モノ、成立存在ヲ禁ゼン
トスルニ在レハ其所有主ノ何人タルヲ問フノ必要ナキヤ明カナリ

第一注意 凡ソ没收スヘキ物件ハ必ス裁判所ニ於テ現實之ヲ押收スルコトヲ要
セス唯其物ハ裁判所ニ於テ之ヲ自由ニスルノ程度ニ在レハ則チ可ナリ故ニ或
ハ其物件ハ裁判所ニ於テ現實之ヲ押收スルコトアリ或ハ其物件ハ裁判所ニ於
テ之ヲ差押ヘ他人ニ保管ヲ命スルコトアリ若シ夫レ没收スヘキ物件ト没收ス
ヘカラサル物件ト混同シテ之ヲ分離スヘカラサルトキハ没收ハ之ヲ執行スヘ

カラサルカ故ニ事實ノ不能ニ因リ没收ヲ爲スヘカラス

第二注意 現行刑法ニ於テハ没收ハ法律ノ命令ナルヲ以テ如何ナル場合ニ於テ
モ苟モ法律ノ條件ニ適合シタルトキハ必ス没收ヲ爲サルヘカラサルナリ然
レトモ法律ノ禁制シタル物件ニ於テモ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ於テモ亦犯
罪ニ因リ得タル物件ニ於テモ物件ノ價值没收スルニ足ラサルモノアリ此種ノ
物件ヲモ尙ホ之ヲ没收セントスルトキハ實際ノ不便大ナルヲ以テ改正刑法草
案ニ於テハ之ヲ改正シテ没收ヲ以テ裁判所ノ義務ト爲サスシテ之ヲ其權利ト
爲シタリ即チ没收ノ條件具備スルトキト雖モ裁判所ハ必ス其没收ヲ宣告スル
ノ義務アルモノニアラス裁判所ニ於テ没收ヲ必要ナリトスル場合ニ限り之ヲ
行フノ權利ヲ有スルノミ

刑罰計算

第四章 刑罰計算

凡ソ刑ハ裁判確定ノ後ニアラサレハ之ヲ執行スルコトヲ得ス是レ刑法第五十條
ノ規定スル所ナリ然レトモ刑ノ執行ト刑ノ起算ハ之ヲ混同スルヲ得ス第五十一
條ニ於テ刑ノ起算ヲ規定ス曰ク刑期ハ刑名宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴ヲ爲シ

タル者ハ左ノ例ニ從フ(一)犯人自ラ上訴シテ其上訴正當ナルトキハ前判宣告ノ日ヨリ起算ス若シ上訴不當ナルトキハ後判宣告ノ日ヨリ起算ス(二)檢察官ノ上訴ニ係ルトキハ其上訴正當ナルト否トニ拘ハラズ前判宣告ノ日ヨリ起算ス(三)上訴中保釋ヲ得又ハ責付セラレタルトキハ其日數ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得スト本條ニ由テ之ヲ觀レハ刑期ノ起算ハ裁判確定ノ日ヨリセスシテ裁判宣告ノ日ヨリスルナリ然レトモ刑期起算ノ必要ハ總テノ自由刑ニ於テ之ヲ觀ルヘキモノニアラス今刑期起算ノ必要ナキ場合ヲ舉シレハ二アリ(第一)無期徒刑ニ付テハ原則上刑期起算ノ必要ナシ何トナレハ無期徒刑ハ犯人ノ死ヲ以テ刑期ノ終了ト爲セハ其日數ヲ計算スルノ必要ナケレハナリ唯無期徒刑モ十五年ヲ經過スレハ假出獄ノ許ヲ受クルコトアルヲ以テ此場合ニ限り初メテ刑期計算ノ必要ヲ觀ルナリ(第二)闕席裁判ノ場合ニ於テ判ノ場合ニ於テモ亦刑期起算ヲ爲スノ必要ヲ觀サルナリ闕席裁判ノ場合ニ於テハ或ハ第五十九條ニ規定スル期間内ニ於テ犯人捕ニ就クニアラサレハ期滿免除ヲ得ルヲ以テ刑期ヲ起算スルノ必要ナシ或ハ其期間ニ於テ逮捕セラレ、トキハ逮捕ノ日ヨリ起算シ若シ故障ヲ爲シタルトキハ其裁判ハ無效トナルヲ以テナリ

是故ニ刑期ノ起算ヲ必要トスル場合ハ唯有期自由刑ニ在リトス
有期自由刑ニ付テ刑期ノ起算ヲ爲スニ必要ナル原則三アリ

第一原則 有期自由刑ニ處セラレタル者判決ノ當時既ニ其自由ヲ失フタルトキ

ハ其刑ノ執行ハ必ス裁判確定ノ日ヲ俟タサルヘカラス

抑モ裁判確定ノ日トハ則チ如何ナル日ヲ言フカ凡ソ裁判ニハ上訴ノ期間ヲ定

メ控訴ノ期間ハ判決言渡ノ日ヨリ五日トス上告ノ期間ハ三日トス(刑訴第二百

五十二條及ヒ第二百七十一條)此期間ヲ經過シタルトキハ初メテ判決ノ確定ス

ルヲ觀ル即チ期間經過ノ翌日ヲ以テ確定ノ日トス故ニ若シ犯人ニ於テ上訴ヲ

爲サ、ルトキハ第一審ノ判決アリタル日ヨリ五日ヲ經其翌日ヨリ刑ノ執行ヲ

受ケサルヘカラス若シ控訴ヲ爲シタルトキハ控訴ノ判決アリタル日ヨリ三日

ヲ經其翌日ニ於テ判決ノ確定ヲ觀ル若シ又上告ヲ爲シタルトキハ上告ノ結果

ニ因リ確定ノ日ヲ異ニス或ハ上告裁判所ニ於テ上告ヲ棄却シ又ハ擬律上ノ裁

判ヲ爲シタルトキハ其裁判ハ其日確定シ若シ破毀シタルトキハ破毀後ノ裁判

ノ確定ハ前例ニ同シキナリ

第二原則 裁判確定前ニ於ケル犯人ノ未決勾留日數ハ之ヲ刑期ニ算入スヘキ歟
未決勾留ハ刑罰ニアラサル自由ノ剝奪ナルコトハ前既ニ論シタル所ナリ既ニ
刑罰タラサル以上ハ原則上之ヲ以テ刑期ニ算入スヘキモノニアラサルヤ明白
ナリ

故ニ裁判前ノ勾留日數ハ其如何ナル場合ニ於テモ之ヲ刑期ニ算入セス然レト
モ未決勾留ハ刑事被告人ノ爲メニ痛苦ヲ生スルコト懣カラサルヲ以テ刑法ハ
例外トシテ判決後ニ於ケル未決勾留ノ日數ヲ以テ之ヲ刑期ニ算入スルコトヲ
許シタリ

刑法ハ判決後犯人カ勾留ヲ受ケタル場合ト其否ラサル場合トヲ區別シ刑期起
算ノ規定ヲ爲シタリ

第一場合 犯人ハ勾留ヲ受ケス犯人勾留ヲ受ケサルトキハ刑期ハ裁判執行ノ
日ヨリ之ヲ起算セサルヘカラサルカ如シ然レトモ刑法ハ刑期ハ刑名宣告ノ
日ヨリ起算スト言フノ規定ヲ設ケタルヲ以テ刑名宣告ノ日ヨリ判決執行ノ
日ニ至ル迄ノ日數ハ全ク犯人ノ利得ト爲ルナリ

上訴中保釋ヲ受ケ又責付セラレタルモ亦同シ

第二場合 犯人ハ勾留ヲ受ク犯人勾留ヲ受ケタルトキハ左ノ區別ニ從テ其刑
期ヲ計算ス

(イ) 犯人ハ上訴ヲ爲シ而シテ其上訴ハ控訴ニ於テモ亦上告ニ於テモ理由ア
ルモノト爲リタルトキハ則チ刑ハ第一審判決ノ日ヨリ起算スルナリ即チ
第一審判決ノ日ヨリ上告審確定ノ日ニ至ル迄ノ勾留日數ハ悉ク之ヲ刑期
中ニ算入スルナリ蓋シ犯人上訴シテ控訴上告共ニ理由アルモノト爲リタ
ルトキハ第一審ノ判決モ亦第二審ノ判決モ不當タルヲ以テ其不當ヲ正ス
カ爲メニ用非タル所ノ日數ハ即チ是レ犯人ノ過失ニ原因セスシテ全ク裁
判所ノ過失ニ原因スルモノナリ裁判所ノ過失ハ爲メニ未決勾留ノ日數ヲ
長クスルノ理由アラサルヲ以テ之ヲ刑期ニ算入スルハ固ヨリ當然ナリ
控訴上告共ニ理由アリタルトキハ則チ刑期ノ起算ニ付キ毫モ困難ナシト
雖モ犯人ノ上訴ニシテ或ハ控訴ニ理由アリテ而シテ上告ニ理由ナキ場合
アリ或ハ控訴ニ理由ナクシテ而シテ上告ニ理由アル場合アリ此等ノ場合

ニ於テハ如何ナル方法ニ依テ以テ刑期ヲ計算スルヤ論者曰ク刑法ニ所謂
 上訴ノ正當トハ上訴最終ノ結果ニ付テ之ヲ言フモノナレハ犯人ハ控訴ニ
 於テ正當ノ理由ヲ有スト雖モ上告ニ於テ棄却ト爲リタルトキハ犯人ノ最
 終ノ結果ハ正當ナラサルヲ以テ第一審ヨリ上告審ニ至ル迄ノ勾留期間ハ
 之ヲ刑期ニ算入スルヲ許サスト然レトモ余ハ此説ニ左袒スル者ニアラス
 宜シク上訴審ノ階級ニ從テ刑期ノ計算ヲ區別スヘキモノト信スルナリ以
 下數箇ノ場合ヲ區別シテ論究スル所アルヘシ

(一) 犯人ハ第一審判決ニ對シテ控訴シ其控訴ハ正當ナリシモ犯人ハ尙ホ
 上告シテ棄却ノ判決ヲ受ケタリ此場合ニ於テ第一審ヨリ第二審ニ至ル
 迄ノ勾留期間ハ之ヲ刑期ニ算入シ第二審ヨリ上告審ニ至ル迄ノ日數ハ
 之ヲ刑期ニ算入スヘカラス刑法ハ單ニ上訴正當ナルトキハ云々ト言フ
 テ而シテ其上訴ノ最終ノモノタルト否トニ付テ毫モ區別スル所ナシ然
 ラハ則チ犯人ノ控訴ニシテ正當ナランカ前判即チ第一審ノ判決ノ日ヨ
 リ刑期ヲ計算スヘキハ當然ナリ然レトモ上告審ニ至リテ不當ト爲リタ

ルトキハ即チ其上訴ハ正當ニアラサルヲ以テ必ス前判即チ第一審判決
 ノ日ヨリ控訴審判決ノ日ニ至ル日數ヲ控除シタル上上告審判決ノ日ヨ
 リ刑期ノ計算ヲ爲スヘシ

(二) 犯人ハ第一審判決ニ對シテ控訴ヲ爲シ棄却ノ判決ヲ受ケテ而シテ更
 ニ上告ヲ爲シ其上告カ正當ナリトノ判決ヲ受ケタリ此場合ニ於テ第一
 審判決ニ對スル控訴ハ不當ナルヲ以テ第一審判決ノ日ヨリ控訴審判決
 ノ日ニ至ル迄ノ期間ハ之ヲ刑期ニ算入スルヲ得スト雖モ控訴審判決ノ
 日ヨリ上告審判決ノ日ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入セサルヘカラ
 ス前判即チ第二審判決ノ日ヨリ刑期ヲ起算スルナリ

(ロ) 犯人ノ上訴ハ控訴上告共ニ不當ナルトキハ後判即チ上告審宣告ノ日ヨ
 リ刑期ヲ計算スルナリ此場合ニ於テ犯人ハ判決ノ正當ナルニ拘ハラス猶
 ホ判決ニ服セスシテ上訴ヲ爲シタルモノナレハ其間ノ未決勾留ハ犯人ノ
 自ラ招ク所其罪犯人ニ在リテ而シテ裁判所ニアラサルヲ以テ之ヲ犯人ノ
 利益ニ計算スルノ理由ナキモノナリ

(ハ) 犯人ハ上訴中其上訴ノ取下ヲ爲シタリ此場合ニ於テ第一審判決又ハ第二審判決ノ日ヨリ其取下ノ日ニ至ル迄ノ日數ハ之ヲ犯人ノ利益ニ計算スヘキモノカ將タ犯人ノ不利益ニ計算スヘキモノ歟刑法ハ上訴取下ノ場合ニ規定セサルヲ以テ宜シク道理ニ依テ以テ之カ決定ヲ爲サ、ルヘカラス犯人カ上訴ヲ取下ケタルハ是レ犯人原裁判ニ服從セシカ爲メナリ犯人ニ於テ原裁判ニ服從スルトキハ即チ法律上其裁判ハ正當ニシテ批難スルモノナシト謂ハサルヘカラス既ニ判決正當ナランカ其上訴ノ不當ナル論ヲ俟タスシテ明カナルヲ以テ上訴ノ取下ハ之ヲ以テ上訴ノ不當ナル場合ト看做スコトヲ得ヘシ故ニ原裁判宣告ノ日ヨリ上訴取下ノ日ニ至ルノ日數ハ之ヲ刑期ニ算入スヘカラス即チ取下ノ日ヲ以テ後判宣告ノ日ト看做スナリ

(ニ) 検事ノ上訴ニ係ルトキハ其上訴ノ正當ナルト否トニ拘ハラス犯人ノ未決勾留日數ハ必ス之ヲ刑期ニ算入スルナリ若シ犯人上訴權ヲ行ハスシテ原判決ニ服從スルトキハ即チ刑期ハ其判決宣告ノ日ヨリ之ヲ起算スルヲ

乙

以テ爾來犯人ハ未決勾留ノ苦ヲ觀ルモノニアラサルナリ然ルニ検事ハ其判決ニ服セスシテ上訴ヲ爲シタルトキハ上訴裁判ノ確定ノ日ニ至ル迄犯人ノ受クヘキ未決勾留ノ苦ハ是レ犯人ノ所爲ニ出ツルニアラスシテ検事ノ所爲ニ出ツルモノナレハ縱令検事ノ所爲ハ正當ナルモ其未決勾留日數ハ之ヲ犯人ノ不利益ニ計算スヘキモノニアラス況ンヤ其上訴不當ナル場合ニ於テオヤ

若シ犯人モ上訴シ又検事モ上訴シタルトキハ如何此場合ニ於テハ犯人ノ上訴アリト雖モ苟モ検事ノ上訴アル以上ハ犯人ノ上訴ノ正當ト不正當トヲ問ハス勾留日數ヲ以テ犯人ノ利益ニ算入セサルヲ得ス何トナレハ刑法ニ於テハ唯検事ノ上訴ニ係ルトキハ云々トアリテ其犯人ト上訴ヲ共ニシタル場合ヲ區別セサルヲ以テナリ

第三原則 刑期ハ如何ナル方法ニ依リテ計算スル歟刑期ハ日ヲ以テスル場合ト月ヲ以テスル場合ト年ヲ以テスル場合トニ因リ其方法ヲ異ニス日ヲ以テスル場合ハ時ヨリ時ニ計算シ月ヲ以テスル場合ハ日ヨリ日ニ計算ス年ヲ以テスル

モノハ曆ニ從テ刑法第四十九條第一項ニ曰ク「刑期ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從テ」ト例ヘハ禁錮二十日ト謂フトキハ二十四時間ヲ二十倍シタル期間ヲ謂ヒ禁錮十月ト謂フトキハ三十日ヲ十倍シタル日數ヲ謂フモノナリ若シ夫レ禁錮二年ト謂フトキハ其二年ノ年ニハ平年ト閏年ノ區別アリト雖モ法律ハ唯曆ニ於テ稱スル所ノ年ヲ以テ之ヲ計算スルナリ

尙ホ終リニ臨ンテ一言ノ注意スヘキモノアリ未決勾留ハ其目的危害ヲ豫防シ豫審ヲ確實ニシ且刑ノ執行ヲ擔保スルヲ目的トスルモノニシテ事實ノ必要止ムヲ得サルニ出ツル處分ナリト謂フト雖モ犯人ヲシテ判決以前刑罰ニ等シキ處分ヲ受ケシムルハ決シテ間然スヘキモノナリト謂フヘカラス然ルニ刑法ハ唯判決以後ノ勾留日數ニ付テハ之ヲ刑期ニ算入スルコトヲ許シタリト雖モ判決以前ノ勾留日數ハ全ク之ヲ以テ犯人ノ損失ニ歸スヘキモノトセリ是レ豈條理ニ適合シタル法律ナリト謂フヘケンヤ判決以後ニ於テ之ヲ刑期ニ算入スルコトヲ得ヘキノ理由アリトセハ判決以前ニ於テ之ヲ刑期ニ算入セサルノ理由アラシヤ改正刑法

草案ニ於テハ現行刑法ノ規定ヲ改メ判決ノ前後ニ拘ラス左ノ區別ニ從テ勾留日數ヲ刑期ニ算入スルコト、爲シタリ即チ(一)懲役一日ニ付キ勾留六日(二)禁錮勾留一日ニ付キ勾留三日トセリ

第五章 期滿免除

第一節 總論

期滿免除
總論

期滿免除ハ犯罪ノ發生後又ハ刑ノ宣告後一定時間ノ經過ニ因リ公訴權又ハ刑ノ執行權ヲ消滅セシムルノ效果ヲ生スル所ノモノナリ是レ唯時ノ經過ニ因リ犯人ニ對シテ公訴ヲ免シ又刑ノ執行ヲ免スルカ故ニ期滿免除ノ名稱アリ其公訴又ハ刑ノ執行ノ免除ハ一ニ時ノ效力ニ原因スルカ故ニ時效ノ名稱アルナリ犯人罪ヲ犯シ又ハ刑ノ宣告ヲ受ケタル後之ニ對シテ公訴ヲ提起スルコトナク又刑ノ執行ヲ爲サスシテ一定ノ時期ヲ經過スルトキハ則チ其犯人ハ全ク公訴權又ハ刑ノ執行ヲ免ル、ヲ以テ爾來如何ナル理由アルモ其犯罪ノ被告人トナリ又刑ノ執行ヲ受クルノ義務アルコトナシ

抑モ時ノ經過ヲシテ此ノ如キ效力ヲ生セシムルノ理由果シテ何處ニ在ル乎ガロ

1) 氏曰シ期滿免除ヲ設クルノ理由ハ實ニ刑罰權ノ基本ヨリ出ツルナリ刑罰權ハ正義ト實利ヲ以テ其根據トナス正義ノ方面ヨリ觀ルトキハ則チ期滿免除ハ到底之ヲ設クヘキモノニアラスト雖モ實利ノ方面ヨリ論スレハ則チ大ニ之ヲ設クルノ理由アルヲ見ルナリ蓋シ罪ヲ犯シテ久シク之ヲ訴ヘス刑ヲ科シテ久シク之ヲ執行セサルトキハ則チ犯罪事實ハ漸ク社會ノ遺忘スル所トナリ威赫ノ必要モ亦自ラ消滅シテ而シテ社會ノ刑罰權之ヲ施スノ所ナシ故ニ犯人ニ對シテ犯罪ノ結果ヲ免除シ又刑罰ノ結果ヲ免除スルハ是レ犯罪ヲ遺忘シ又刑ノ宣告ヲ遺忘シタルナリトノ推定ニ基カスシハアラス刑罰ヲ行フノ理由ナキ場合ニ於テ公訴及ヒ刑ノ期滿免除ヲ設クルノ正當且必要ナルコト蓋シ明白ナリ此推定ハ社會ノ實利ヲ目的トシテ之ヲ設ケタルモノナレハ決シテ反對ノ證據ニ依テ之ヲ破ルヘキモノニアラサルナリト

是レ即チ佛國刑法ニ於テ規定シタル時効ノ基本ニシテ我現行刑法ノ採テ以テ之ニ倣フタル所ノモノナリ期滿免除ノ基本茲ニ在リトスレハ則チ犯罪ノ輕重ニ因テ以テ期滿免除ノ時期ノ長短ヲ區別シ又公訴ノ時効ト刑ノ時効ニ付テ其時期ヲ

同フセサル所以ノモノモ亦自ラ明瞭ナリ蓋シ犯罪ノ重キモノハ之ヲ記憶スルコト長ク犯罪ノ輕キモノハ之ヲ記憶スルコト短ク又判決ヲ經サル犯罪ハ之ヲ遺忘スルコト易ク判決ヲ經タル犯罪ハ之ヲ遺忘スルコト難キハ即チ人ノ性情ニ於テ然ルナリ

故ニ我現行刑法ノ規定ヲ説明スルニ付テハガロイ氏ノ說ヲ以テ最モ穩當ナリト謂ハサルヘカラス或ハ罪業消滅ヲ以テ期滿免除ノ基本ト爲シ或ハ證據湮滅ヲ以テ其理由ト爲ス者アリト雖モ是レ皆ガロイ氏言中ノ一部ニ過キサルナリ余ハ深ク信ス現行刑法ノ期滿免除ニ付テハガロイ氏ノ説明ノ右ニ出ツルモノナキナリ然レトモ余ハ元來絶對的ニ期滿免除ニ反對スル者ニアラスト雖モ佛國刑法又ハ我現行刑法ニ規定スル所ノ期滿免除ハ則チ大ニ之ヲ攻撃セント欲スルナリ刑法審査委員會ニ於テモ大ニ現行刑法ノ非ヲ鳴ラシ遂ニ期滿免除全廢說ヲ主張セシモ多數ニ制セラレテ其目的ヲ達スルヲ得サリシ現行刑法ニ於テハ犯罪ノ輕重ニ從テ期滿免除ノ期間ヲ異ニシ之ヲ總テノ犯人ニ適用スヘシト爲セリ若シ夫レ期滿免除ハ推定上ノ遺忘即チ刑罰權ヲ用ユルノ必要ナシト謂フノ理由ニ因テ之ヲ

設ケタルモノナリトスレハ則チ苟モ社會ニ於テ刑罰ヲ用ユルヲ必要トスルトキハ如何ナル場合ニ於テモ其犯罪ヲ罰セサルヘカラス犯罪ヲ罰スルノ必要アリテ而シテ尙ホ且其犯罪ハ之ヲ遺忘シタリ之ヲ罰スルノ必要ナシトスルハ是レ大ニ刑罰權ノ原則ニ牴觸スト謂ハサルヘカラス何トナレハ刑罰權ハ社會ノ犯罪ヲ防衛セント欲シ而シテ期滿免除ハ即チ其犯罪ヲ許容セント欲スレハナリ故ニ一定ノ時期ヲ經過スレハ犯人ノ如何ナル種類タルヲ問ハス之ヲ罰スルノ必要ナシトシテ總テノ犯人ニ對シテ時効ノ規則ヲ適用セントスルハ刑法ノ規定大ニ謬ル所アリト謂ハサルヘカラス

夫レ犯人ハ悉ク同一種類ノモノニアラス或ハ營業的ニ犯罪ヲ慣行スル者アリ或ハ偶然ニ犯罪ヲ決行スル者アリ偶發性ノ犯人ニ對シテハ社會深ク之ヲ惡マスト雖モ慣行性ノ犯人ニ對シテハ社會最モ之ヲ恐ル、ナリ偶發性ノ犯人ハ屢改悛スルモノナルカ故ニ一定ノ時間ヲ經過スレハ之ニ對シテ公訴ヲ起シ又ハ刑ヲ執行スルノ必要ナシト雖モ慣行性ノ犯人ハ其社會ニ存在スル限りハ常ニ危害ヲ生スルノ恐アルモノナレハ此種ノ犯人ニ對シテハ幾十年ヲ經過スト雖モ之カ訴ヲ免

シ又之カ刑ノ執行ヲ免スルノ理由ヲ生セサルナリ刑罰權ハ社會ノ危險ヲ防衛スルノ大權ナリ社會ノ危險尙ホ未タ去ラスシテ而シテ此權利ヲ行ハサルノ理由アラシヤ故ニ余ハ犯人ノ種類ヲ區別シ改悛ノ效アル者ニ對シテハ期滿免除ノ利益ヲ與ヘ而シテ改悛ノ效ナキ者ニ對シテハ終身期滿免除ノ利益ヲ與ヘサントノ規則ヲ設ケント欲スルナリ即チ社會ハ刑罰權ヲ用ユルヲ必要トセサルトキハ則チ期滿免除ヲ與ヘ之ニ反シ社會カ刑罰權ヲ行フヲ必要トスルトキハ則チ常ニ期滿免除ヲ與フヘキモノニアラスト云フニ在リ

期滿免除ニ二種アリ公訴ノ時効及ヒ刑ノ執行ノ期滿免除即チ是ナリ期滿免除ノ理由ハ二者ニ通シテ同一ナリト雖モ公訴ノ時効ハ之ヲ刑事訴訟法ニ規定シ刑ノ期滿免除ハ之ヲ刑法ニ規定スルヲ以テ余ハ唯刑ノ期滿免除ニ付テ少シク論スル所アラントス

第二節 刑ノ執行ノ期滿免除
第一款 期滿免除ノ區域

裁判所ニ於テ言渡シタル刑ハ一定ノ期間之ヲ執行セサルトキハ期滿免除ニ因テ

刑ノ執行ノ期滿免除ノ區域

消滅スルモノナリ然レトモ是レ言渡シタル刑其モノ、消滅ヲ云フニアラスシテ其刑ノ執行權消滅スルモノナリ蓋シ裁判所ニ於テ一旦刑ヲ宣告シタル以上其刑ハ記録ニ保存シテ幾百年ト雖モ磨滅スルノ憂ナク又遺忘スルノ恐ナキモノナリ其磨滅スヘカラス又遺忘スヘカラサルモノニ付テハ遺忘ノ推定ヲ爲スヘキモノニアラサルナリ但ク其刑ノ執行ニ至リテハ一定ノ時間ヲ經過スレハ社會ニ於テモ犯罪事實ヲ遺忘スルノ結果刑ノ執行ヲ必要トセサルコトアルナリ故ニ世人屢刑ノ期滿免除ナリト謂フテ而シテ刑其モノ、消滅スルカ如クニ論スル者アルモ是レ決シテ正確ノ言ト爲スヲ得ス刑ハ如何ナル場合ニ於テモ消滅スヘキモノニアラス唯刑ノ執行權消滅スルト謂フヘキノミ

期滿免除ハ刑ノ執行權ヲ消滅セシムルモノナリトスレハ則チ執行ノ必要アル刑罰ニアラサレハ此規則ヲ適用スヘキモノニアラサルナリ故ニ未確定ノ判決ニ對シテハ時効ヲ適用セサレテ以テ原則トス(闕席判決ノ場合ハ例外ナリ)然レトモ主刑ノ確定ノミニ因リテ以テ效力ヲ生スヘキ附加刑ハ縱令主刑ヲ免シタル場合ニ於テモ時効ヲ適用セス是ヨリ時効ヲ適用スヘキ場合ト時効ヲ適用スヘカラサル

場合ヲ區別シテ論スヘシ

第一、時効ヲ適用スヘキ場合 時効ハ重罪、輕罪、違警罪ノ主刑並ニ附加ノ罰金又ハ沒收ニ付テ之ヲ適用ス沒收ハ沒收物ノ所有權ヲ以テ之ヲ政府ニ移轉スルニ在ルモノニシテ唯判決ノ確定ノミヲ以テ其效力ヲ生スルモノナリ罰金ハ政府ノ債權ヲ作ルモノニシテ是レ又判決ノ確定ノミヲ以テ其效力ヲ生スルモノナリ故ニ此二者ニ對シテハ時効ノ原則ヲ適用スヘカラサルニ似タリ然レトモ凡ソ債權ニシテ一定ノ時期ヲ經過スレハ時効ノ利益ヲ得サルナキハ民法上ノ原則ナリ然ラハ則チ沒收モ罰金モ共ニ政府ノ債權タルニ過キササルモノナレハ民法上ノ債權ト等シク時効ノ規則ヲ適用スヘキモノタルコト毫モ疑ナ容レサルナリ

第二、時効ヲ適用スヘカラサル場合 時効ハ剝奪公權、停止公權、監視及ヒ禁制物ニ對シテ之ヲ適用セス刑法ハ如何ナル理由アリテ此種ノ附加刑ニ對シテ期滿免除ノ規則ヲ適用セスト謂フ乎此種ノ刑ハ主刑ニ附屬スル所ノモノナレハ主刑ト其運命ヲ共ニセサルヘカラサルモノニ似タリ然レトモ公權ノ剝奪、公權ノ

停止ハ人ノ能力ノ剝奪停止ニシテ人ノ能力ハ時効ノ規則ニ因テ以テ之ヲ取得シ又之ヲ喪失スヘキモノニアラサルナリ即チ法律上其能力ヲ有セサル者十數年間事實上其能力ヲ行フト雖モ能力ノ占有ハ時効ノ原因ト爲ルヘキモノニアラス能力ノ占有ハ時効ノ原因ト爲ラストスレハ剝奪公權停止公權ニ因テ其能力ヲ失フタル者事實上幾十年之ヲ占有スルモ到底期滿免除ニ因テ能力者タルヲ得サルヤ明カナリ故ニ剝奪公權及ヒ停止公權ニハ時効ノ原則ヲ適用セザルナリ刑事上ノ禁治産ハ亦時効ヲ得サルモノナル乎禁治産ハ私權ヲ行フ能力ヲ停止スルノ方法ナリ故ニ權利ノ種類ニ付テハ公私ノ區別アリト雖モ能力ノ停止ニ至テハ公權停止ト毫モ異ナル所ナシ然ラハ則チ刑事上ノ禁治産ニハ時効ノ規則ヲ適用スヘカラサルモノ、如シ然ルニ刑法第六十條ニ於テハ唯剝奪公權停止公權ハ期滿免除ヲ得スト規定シ而シテ禁治産ニ付テハ一言ノ之ニ及ブナキヲ以テ之ヲ觀レハ禁治産ハ停止公權ト其性質ヲ同フスルコ拘ハラヌ期滿免除ヲ適用スルコトヲ許サ、ルナリ此規定果シテ正當ナル乎蓋シ刑事ノ禁治産ハ主刑執行ノ期間ニ限り之ヲ施スモノナレハ主刑ノ執行ナキ時ハ禁治産獨

リ之ヲ執行スルヲ得ス從テ期滿免除ニ因リ主刑消滅スルトキハ禁治産ノ附加刑モ亦消滅スト謂ハサルヘカラス論者曰ク停止公權モ亦刑ノ執行期間之ヲ行フモノニアラスヤ然ルニ停止公權ニハ時効ヲ適用セス而シテ禁治産ニ於テ時効ヲ適用スルハ抑モ亦不條理ナラスヤト若シ夫レ停止公權ハ唯主刑ノ執行期間ニ限り之ヲ行フモノナリトセハ論者ノ批難大ニ是ナリ然レトモ停止公權ハ監視ノ執行中ニモ亦之ヲ行フモノナリ監視中ノ停止公權全ク主刑ト獨立スルモノナルヲ以テ主刑ニ從テ期滿免除ヲ得ルノ理由ナシ
若シ夫レ監視ニ付テハ公權ノ剝奪停止ト同一ニシテ論スヘカラサルナリ監視ハ政府ニ於テ犯人ニ對シテ特別ノ監督ヲ爲スニ於テ成立スル所ノ附加刑ナリ特別ノ監督ハ犯人ノ意思如何ニ拘ハラヌ政府ニ於テ之ヲ行フ所ノモノナレハ犯人ハ監視ヲ免レテ何處ニ行クト雖モ政府ノ監督ハ常ニ繼續シテ而シテ行ハル、モノナリ監督ノ執行繼續スル以上ハ何レノ時カ時効ヲ得ルノ機會アラシヤ例ヘハ被監視人ハ監視ノ執行地ヲ遁レタリ是レ監視規則ニ違背シタルモノナリ其逃走幾十年繼續スルト雖モ到底逃走人タルヲ免レス故ニ曰ク監視ニハ

期滿免除ナシト
禁制物ハ其目的物件其モノ、成立存在ナ禁制スルニ在ルヲ以テ其物件ノ成立存在スル限リハ幾十年ノ後ト雖モ之ヲ禁制セサルヘカラサルカ故ニ期滿免除ノ規則ヲ適用スヘキモノニアラサルナリ

期滿免除ノ期間

第二款 期滿免除ノ期間

期滿免除ノ期間ハ刑法第五十九條ニ於テ之ヲ規定ス曰ク主刑ハ左ノ期限ニ從テ期滿免除ヲ得(一)死刑ハ三十年(二)無期徒刑ハ二十五年(三)有期徒刑ハ二十年(四)重懲役、重禁獄ハ十五年(五)輕懲役、輕禁獄ハ十年(六)禁錮、罰金ハ七年(七)拘留、科料ハ一年ト又第六十條ニ於テ附加刑ノ期滿免除ヲ規定シテ曰ク附加ノ罰金ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ得沒收ハ五年ヲ經テ期滿免除ヲ得ト刑法ノ規定ハ裁判所カ犯人ニ科シタル刑名ヲ以テ期滿免除ノ期間ヲ定ムルノ標準ト爲セリ故ニ犯罪ノ性質ハ措テ問フ所ニアラサルナリ例ヘハ重罪ノ刑ヲ減刑シテ輕罪ノ刑ヲ科スルコトアリ此場合ニ於テ犯罪ノ性質重罪ナリト雖モ之ニ科スル所ノ刑輕罪ナレハ即チ之ニ適用スルニ輕罪ノ刑ノ時効ヲ以テスヘキナリ

第一問 期滿免除ノ期間ハ何レノ日ヨリ之ヲ起算スヘキ乎 第六十一條之カ規定ヲ爲シテ曰ク期滿免除ハ刑ノ執行ヲ通レタル日ヨリ起算ス若シ捕ニ就キ再

ヒ逃走シタルトキハ其逃走ノ日ヨリ起算スト蓋シ刑ノ期滿免除ハ刑ノ執行ヲ免除スルノ謂ナレハ執行ノ程度ニ達シタル刑即チ確定シタル刑ニアラサレハ期滿免除ヲ得ヘキモノニアラサルナリ

刑ノ宣告カ未ダ確定セサル迄ハ尙ホ公訴ノ執行中ニ在ルヲ以テ此場合ニ於テハ刑ノ期滿免除ヲ適用セスシテ公訴ノ時効ヲ適用セサルヘカラス之ヲ換言スレハ公訴ノ終ル日ハ即チ刑ノ執行ノ始マルノ日ナルヲ以テ刑ノ時効ノ始マリハ即チ刑ノ宣告ノ確定後ニ在ルコト明カナリ本條ニ於テ刑ノ執行ヲ通レ又ハ捕ニ就キ再ヒ逃走シタル云々ト規定シタルモ亦是レ其執行ノ程度ニ至リタル刑ヲ指シタルコトヲ明カニセシナリ是ヨリ對審判決ニ關スル場合ト闕席判決ニ關スル場合ヲ區別シテ之ヲ論スヘシ

第一、對審裁判ノ場合 對審裁判ニテ刑ノ宣告ヲ爲シタルトキハ上訴期間中ハ尙ホ公訴中ニ在ルヲ以テ刑ノ期滿免除ハ未ダ開始セサルナリ一朝上訴期

間經過シ其宣告確定シタルトキハ公訴ハ茲ニ消滅シテ而シテ刑ノ期滿免除ハ開始スルナリ然レトモ其開始ノ日ハガロイ氏ノ主張スルカ如ク裁判宣告ノ日ニ遡ルヘキモノニアラスシテ實ニ其裁判ノ執行ヲ遁レタル日ニ在リ故ニ第一審ニ於テ裁判確定シテ而シテ犯人ハ一日モ刑ノ執行ヲ爲サ、ルトキハ期滿免除ハ裁判宣告ノ日ヨリ控訴期間五日ヲ經過シタル翌日ヨリ起算シ第二審ニ於テハ上告期間三日ヲ經過シタル翌日ヨリ起算シ上告審ニ於テハ判決ノ日ヨリ起算ス

第二、 闕席裁判ノ場合 闕席裁判ハ確定裁判ニアラサルヲ以テ故障期間經過セサル間ハ尙ホ公訴中ニ在リト謂フヘキナリ故ニ闕席裁判ニ對シテハ刑ノ期滿免除ヲ適用スヘカラスト謂フヲ以テ原則ナリトス然ルニ刑法ハ第六十條ニ於テ闕席裁判ノ場合ヲ規定シテ曰ク「闕席裁判ニ係ル場合ニハ其宣告ノ日ヨリ起算ス」ト是故ニ闕席裁判ヲ受ケタル者第五十九條ノ期間ヲ經過スル迄逮捕ヲ免レタルトキハ期滿免除ニ因リ刑ノ執行ヲ免ル、モノナリ刑法ハ何ノ理由アリテ闕席裁判ニ對シテ刑ノ期滿免除ヲ開始シタルヤ蓋シ刑法

ハ闕席被告人ニ對シテ對審被告人ヨリ寛大ナル利益ヲ與フルコトヲ好マサリシナリ若シ闕席裁判ニ對シテ刑ノ時効ヲ適用セントスレハ則チ犯人一旦捕ニ就キテ遁レタルトキハ長期ノ時効即チ刑ノ期滿免除ニ因ラサレハ其責ヲ遁ル、ヲ得ス而シテ初ヨリ闕席シテ一度モ捕ニ就カサルトキハ短期ノ期滿免除即チ公訴ノ時効ニ因テ以テ刑ノ免除ヲ受クヘシトセハ何人カ好ンテ對審裁判ヲ受クルノ愚ヲ爲ス者アラフヤ是レ闕席裁判ノ場合ニ於テ特例ヲ設クルニ至リタル所以ナリ

若シ闕席裁判ニ對シテ故障ヲ爲シ更ニ輕キ判決ヲ受ケタルトキハ其輕キ判決ノ刑ニ付テ時効ヲ起算スヘキハ論ヲ俟タサルナリ

刑法ハ捕ニ就キテ逃走シタル場合ヲ規定スト雖モ是レ即チ期滿免除ノ原則ノ適用ニ外ナラサルヲ以テ別ニ之ヲ規定スルノ必要ナキナリ

第二問 刑ノ期滿免除ニハ中斷ノ方法アル乎 刑ノ期滿免除ハ刑ノ執行ノ期滿免除ヲ謂フモノナレハ其期間内ニ執行手續ヲ爲シタルトキハ尙ホ公訴期間内ニ於テ訴訟手續ヲ行フタル場合ノ如ク期滿免除ノ效果ヲ中斷スルノ效ヲ生ス

ルヤ明白ナリ然ルニ刑法ハ唯自由刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シテ中斷ノ方法ヲ設ケ而シテ財産刑ノ期滿免除ニ付テハ之中斷ヲ爲スノ規定ヲ設ケテ刑法第六十二條ニ曰ク「刑ノ執行ヲ遁レタル者ニ對シ逮捕ヲ命シタルトキハ最終ノ令狀ヲ出シタル日ヨリ期滿免除ヲ起算ス」ト

第一場合 自由刑ニ處セラレタル者一日モ刑ノ執行ヲ爲サスシテ逃走シタリ此場合ニ於テハ對審裁判ニ付テハ其裁判確定ノ日ヨリ闕席裁判ニ付テハ其裁判宣告ノ日ヨリ起算スヘキナリ然ルニ後ニ至リテ令狀ヲ發シテ之カ逮捕ヲ命シタルトキハ最終ノ令狀ヲ發シタル日以前ニ於テ經過シタル期間ハ悉ク之ヲ無効トシ最終ニ令狀ヲ發シタル日ヨリ更ニ期滿免除ノ開始スルヲ觀ルナリ

第二場合 犯人ハ一旦捕ニ就キ一部ノ刑ノ執行ヲ爲シテ逃走シタリ逃走ノ日ハ即チ是レ刑ノ執行ヲ遁レタル日ナルヲ以テ此日ヨリ期滿免除ノ期間ヲ計算スヘキハ當然ナリ然レトモ後令狀ヲ發シテ逮捕ヲ命シタルトキハ最終ニ令狀ヲ發シタル日以前ノ期間ハ悉ク無効ニ歸シ令狀發布ノ日ヨリ期滿免除

乙

ノ時効ヲ起算スルナリ

終リニ臨ンテ尙ホ一言スヘキモノアリ公訴ノ時効ハ其效力大赦ニ同シク刑ノ時効ハ其效力特赦ニ同シ然レトモ特赦ニ因テ刑ヲ免レタル者ト期滿免除ニ因リテ刑ヲ免レタル者ハ法律上同一ノ待遇ヲ受クルモノニアラス期滿免除ニ因リテ刑ヲ免レタル者ハ其刑ヲ免レタル日ヨリ監視ニ付セラル特赦ヲ得タル者ハ此義務ナシ又特赦ニ因リテ免罪ヲ得タル者ハ特赦狀中記載アレハ直チニ復權ヲ得主刑ノ期滿免除ヲ得タル者ハ監視ニ付シタル日ヨリ五年ヲ經過シタル後ニアラサレハ公權ノ回復ヲ得ス

尙ホ終リニ臨ンテ一問題ヲ掲グヘシ

闕席裁判ノ場合ニ於テ主刑ノ期滿免除ヲ得タルトキハ其主刑ハ確定シタルモノト看做ス乎之ヲ換言スレハ期滿免除經過後犯人ハ尙ホ闕席裁判ニ對シテ故障ヲ申立ツルノ權利ヲ有スル乎余ハ本問ニ對シ深ク論究スルノ遑ナキヲ以テ唯一言ノ決定ヲ爲スニ止メントス曰ク期滿免除ヲ得タル主刑ハ之ヲ確定判決ト同視スヘシ從テ之ニ對シテ故障ヲ爲スヲ許サ、ルナリ刑法第四十條ニ曰ク「主刑ノ期滿

エ2071

3014
13

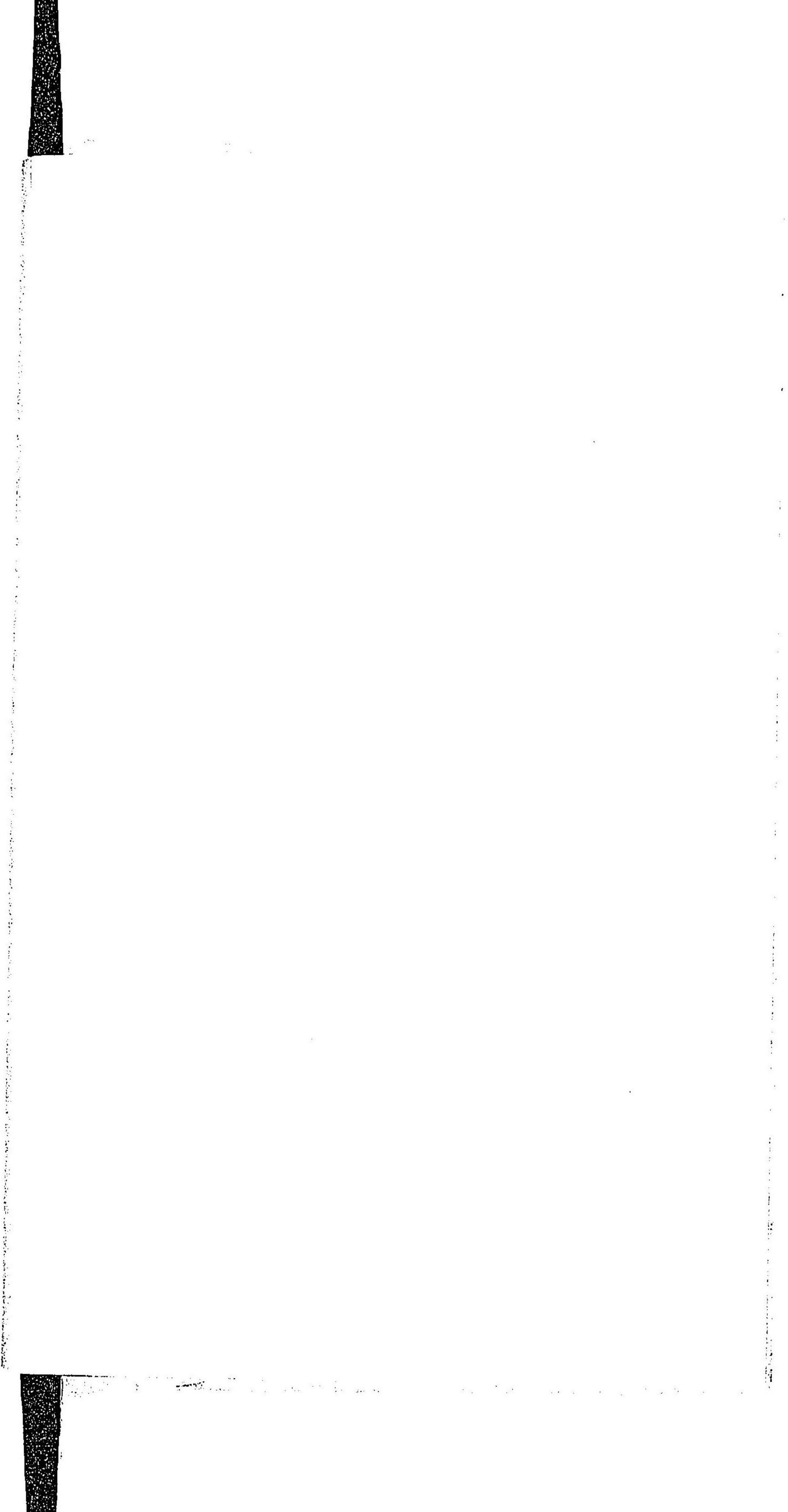
36169

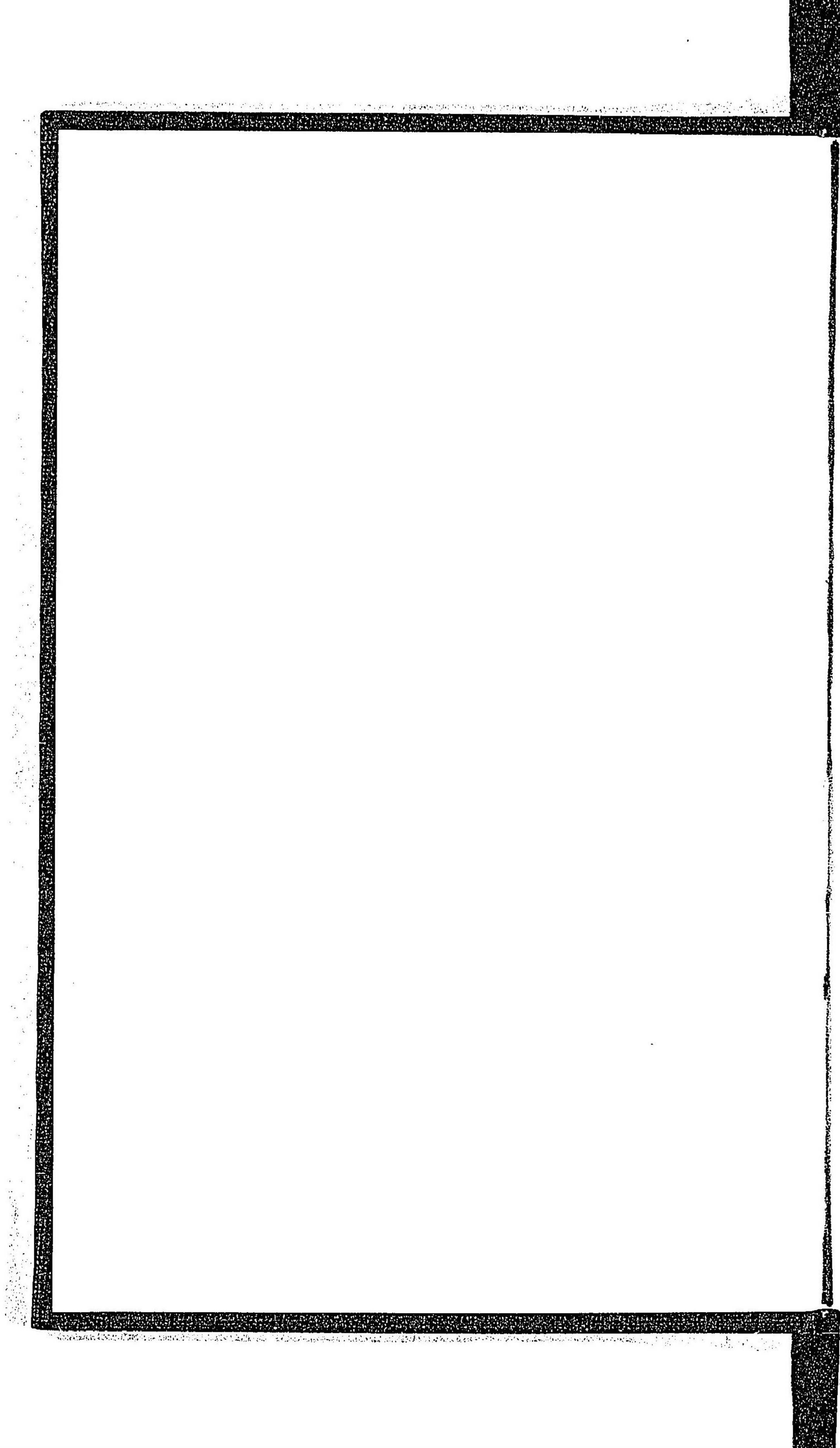
免除ヲ得タルトキハ其捕ニ就キタル時ヨリ監視ノ期間ヲ起算スト監視ハ主刑ニ
伴フ所ノ附加刑ニシテ主刑ト共ニ確定スル所ノモノナリ期滿免除ノ經過後監視
ヲ執行ストスレハ則チ法律ハ期滿免除ヲ經タル判決ヲ以テ確定判決ト同視シタ
ルヤ蓋シ明白ナリ若シ否ラスト謂ハ、則チ是レ未確定ノ附加刑ヲ執行スルニ至
ルナリ

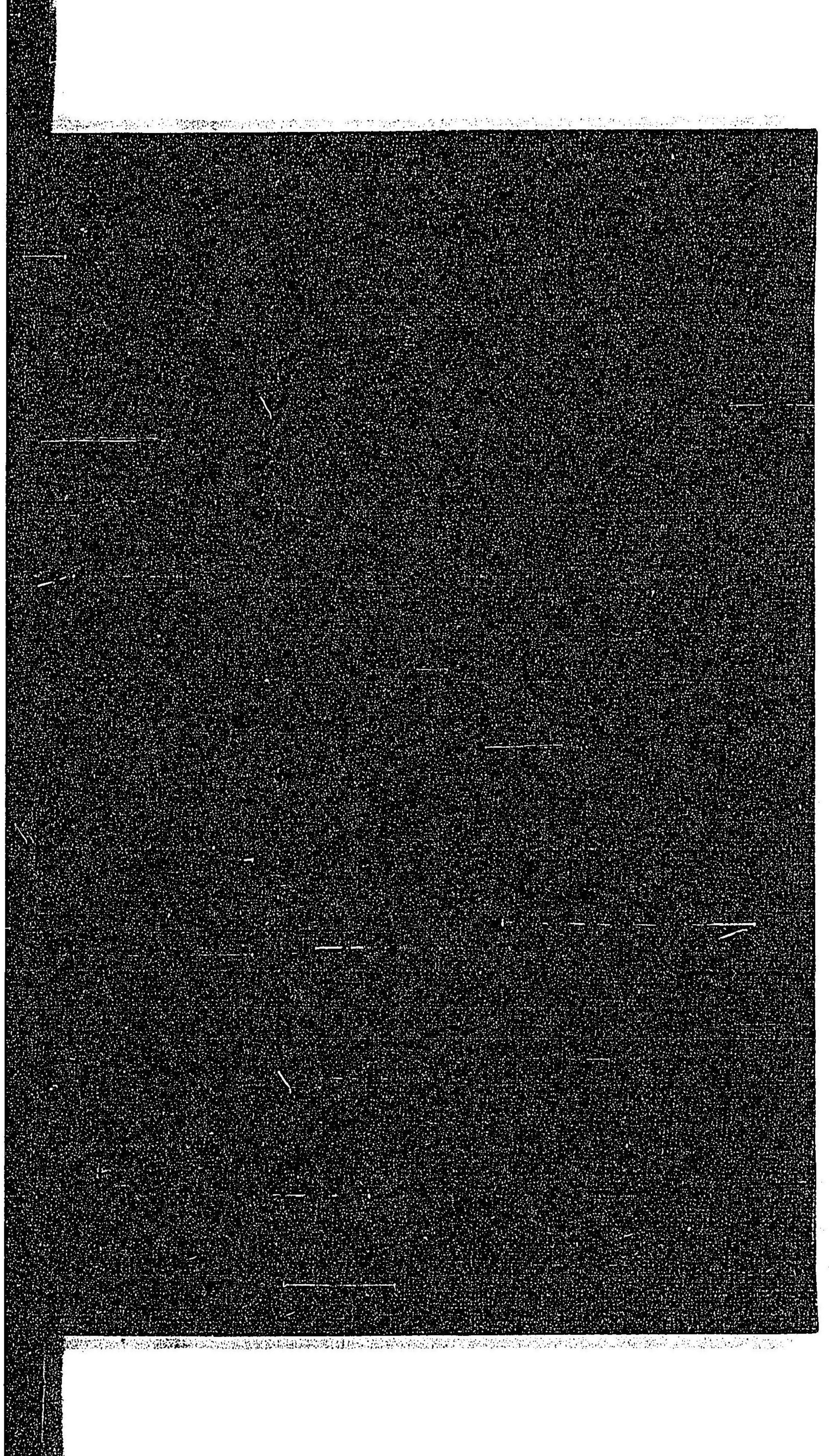
六四〇

刑法汎論(完結)









特70

113

035926-000-7

特70-113

刑法汎論

古賀 廉造/述

〔刊年不明〕

BBP-0524



